桶川市 × 道の駅 べに花の郷おけがわ × 埼玉新聞

埼玉に、生きる。

埼玉新聞SPECIAL PROJECT 44

桶川北本IC近くに新たな道の駅が誕生！

温もり宿る桶川で、食と人をつなぐ。

1970（昭和45）年に市制施行してことしで55周年を迎えた桶川市。市待望の「道の駅べに花の郷おけがわ」が同市川田谷地区にオープンし、明るい話題が続いている。市制55周年と道の駅の開業を祝って小野克典市長と道の駅駅長の中村鷹敏さん、道の駅の立ち上げに携わっている桶川市環境経済部の若手職員、宮堂友佑さん・細谷莉沙さん・小髙諒子さんが一堂に会し語り合った。

（中央）
桶川市長　小野克典　おの・かつのり
1968（昭和43）年生まれ、桶川市出身。東海大学工学部建築学科卒。卒業後、会社勤めを経て、24歳で警備会社を創業。1999年から桶川市議（2期7年）、埼玉県議（2期6年）を経て、2013年4月から桶川市長（現在4期目）。座右の銘は「かけた情けは水に流し、受けた恩は石に刻め」。

（左から2番目）
「道の駅べに花の郷おけがわ」駅長
（運営会社 株式会社ベニネクスト所属）
中村鷹敏　なかむら・たかとし
1989（平成1）年生まれ、東京都出身。尚美学園大学卒。2023年TTCに入社、24年TTCグループのベニネクストに移り「道の駅べに花の郷おけがわ」初代駅長。桶川市在住。

（左端）
桶川市環境経済部 農政課 主事補 宮堂友佑
（右から2番目）
桶川市環境経済部 産業観光課 主事 細谷莉沙
（右端）
桶川市環境経済部 安心安全課 主事 小髙諒子

宮堂友佑（桶川市職員） × 中村鷹敏（道の駅・駅長） × 小野克典（桶川市長） × 細谷莉沙（桶川市職員） × 小髙諒子（桶川市職員）

小野克典市長　ことし11月3日、桶川市は市制施行55周年を迎えることができました。これまで市政の発展にご尽力された皆さまに深く感謝申し上げますとともに、引き続き元気で活力ある持続可能なまちづくりにまい進してまいります。そして55周年を迎える節目の年である本年3月27日に、「道の駅べに花の郷おけがわ」がオープンしました。この道の駅は、圏央道の桶川北本ICから約700m走った上尾道路沿いに面しているため、ＥＴＣ２.０利用の一時退出にも対応しており、高速道路を利用する旅の中継地点としても利用が可能です。現在市外からもたくさんのお客さまにご来場いただいており、これからもこの道の駅から桶川の魅力を大いに発信していけたらと思います。

中村鷹敏駅長　外観は江戸時代の「桶川宿」を彷彿とさせる格子や木戸、塗り壁などの要素を取り入れ、内装も桶川を象徴するべに花のオレンジ色をふんだんに使い、桶川祇園祭（7月開催）にちなんで大きな提灯を吊るすなど活気と賑わいを演出して来場者をお迎えします。そして最も関心の高い食については、「桶まる大食堂」では桶に入った海鮮丼を筆頭に定食・カレーなど家族で楽しめるメニューをご用意しています。お惣菜やお弁当、お土産も約800品ともりだくさん。地元農家さんが丹精込めて育てあげた野菜と果物も多彩にそろえています。一番人気は、その名も「オッケー桶川クリーム生ドーナツ」。「OKegawa」のオブジェ前での記念撮影もどうぞお忘れなく（笑）。

宮堂友佑　青果は桶川産にこだわり、契約農家のうち市内生産者の契約者数が約4～5割となっています。また、ミルク系商品では現在取引量の関係で（桶川産を含む）埼玉県産となっていますが、将来的には、道の駅で取り組んでいる桶川産牛乳を使用した商品開発やイベントなどに、地元の酪農家さんとともに協力できればと考えています。

細谷莉沙　飲食・物販施設のほかにも150人収容の特設ステージを持つイベントスペースやドッグラン、おむつ交換ができる「赤ちゃんの駅」を併設するなど、桶川の重要拠点となっています。わたしは総合案内所にある大型パネルの表記やべに花まつり（ことしから道の駅に会場を移転）に携わりました。今後は道の駅から市内各地に回遊してもらえるようなアイデアを出していきたいです。

小髙諒子　この道の駅には防災拠点としての顔があり、国交省や埼玉県協力のもと全国約1200ある道の駅のうち79の「防災道の駅」（県内唯一）に選定されました。防災（マンホール）トイレ10基、非常用電源や水・食料も確保できる体制を整え、有事の際には一時避難所や救護活動の拠点、緊急物資の基地機能など役割を果たしていきます。

小野克典市長　細谷さん、小髙さんはここ川田谷地区の出身なので、仕事冥利に尽きますね（笑）。ここは、まさに食のテーマパークです。人と食とをつなぎ、休憩機能だけでなく交流拠点、防災拠点、そして何より桶川市の魅力発信拠点として全国に存在を高めていくことを心から願っています。

撮影地：道の駅べに花の郷おけがわ（桶川市川田谷）